

「ソリューションチーム」の取組みについて

平成21年1月15日

「JR貨物による輸送品質改善アクションプラン」の取組みとして、お客様のニーズを反映するため「ソリューションチーム」を設置し、お客様、利用運送事業者の皆様と当社が三位一体となり、課題の解決、対策の実施、効果の検証を行っていますが、取組みの現状についてご案内します。

1. ソリューションチームの設置状況（平成21年1月現在）

- (1)本社版 25チーム（3業界団体、22企業）
- (2)地域版 34チーム（2業界団体、32企業）

2. ソリューションチームの成案事例

59件の“ソリューションチーム”の取組みのなかで、17件が成案となっており、今後さらに取組みを推進することとしています。

- (1)同業他社との組み合わせによる事例 …… 1件
お客様 ……（社）日本電線工業会、住友電工（株）、古河電工（株）
概要 …… 別紙1
- (2)異業種との組み合わせによる事例 …… 1件
お客様 …… イオングローバルSCM（株）
概要 …… 別紙2
- (3)荷主企業個別による事例 …… 15件

3. 今後のソリューションチーム立ち上げ予定

現在、さらに5件のソリューションチームを立ち上げるために、お客様と商談を続けています。

(1) 同業界内における他社との連携によるソリューションチーム

【特徴】 同一業界内の2社による、31フィート大型コンテナの往復輸送

【チーム】 日本電線工業会(住友電工、古河電工)、東武運輸、合通、JR貨物

< チームの課題 >

- ・お客様の出荷拠点及び貨物駅の選定
- ・積み込み施設及び方法の改善
- ・利用する31フィートウィングコンテナの改良
- ・集荷・配達スケジュールの相互調整

< 解決 >

各社の生産拠点のうち、貨物駅に近い拠点を選定し、集荷・配達が効率的に行える区間を決定しました。

工場内において、これまでクレーン荷役を行っていた作業を、積み込み専用スペースを確保し、フォークリフト荷役に変更しました。

2社の様々な形状の製品、半製品を積載することから、製作したコンテナにフックを増設し、製品を固定しやすくしました。

急ぎの製品の積卸時間に合わせて、納期に余裕のある荷物の配達時間を調整



(2) 異業種間での連携によるソリューションチーム

【特徴】 異業種間で、空回送コンテナを活用することによる31フィート大型コンテナの往復輸送の実現

【チーム】 イオングローバルSCM、日本フレートライナー、JR貨物

< チームの課題 >

- ・お客様がモーダルシフトを行う幹線輸送区間の選定
- ・使用する31フィート大型コンテナの運用区間の調整
- ・利用運送事業者の集配体制の調整

< 解決 >

CO₂排出削減効果の高い、全国の在庫物流センターと物流拠点間の幹線輸送区間をチームで選定し、効果の最大化を図りました。

貨物量が多い幹線輸送区間では、31フィートコンテナ利用を決定しました。
 関東 九州区間では、他社の輸送の復路である31ft温度管理コンテナの空回送を温度管理せずに活用しました。

お客様の希望するスケジュールに合わせた配達作業を実行しました。

イオングローバルSCM様 ソリューションチーム展開イメージ図

